

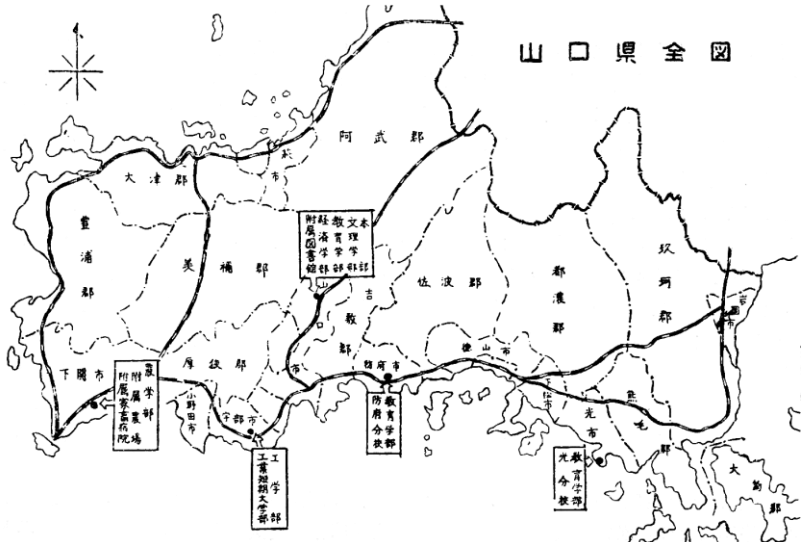
# 大学の運営

## 分散していた学部

開学当時、工学部は宇部市、農学部は下関市、教育学部は山口市に本校、光市と防府市にそれぞれ分校があり、山口市においても文理学部は糸米にあって、経済学部、教育学部とはかなり離れていた。

このような状態にあって、先ず施設の整備・統合の課題があったが、一応総合大学としての形態を整え、昭和28(1953)年3月28日には経済学部講堂において第1回卒業式が挙行された。

同年6月、山口大学本部が経済学部校舎から新道(現在の市民会館敷地)に移転し、このころから大学の管理・運営の整備も始まった。従来の大学運営委員会に代わって評議会、協議会が発足し、学長選考規程や教授会規程などが制定された。



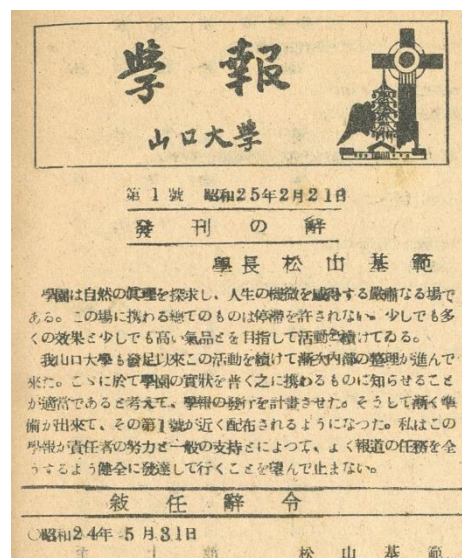
昭和28年頃の学部等配置図  
(昭和30年度『山口大学要覧』より)

## 山口大学学報の創刊

昭和25年、学報が創刊された。発刊の辞で松山学長は、「学園は自然の真理を探求し、人生の機微を感得する厳肅なる場である。この場に携わる総てのものは停滞を許されない。」と述べている。

「この学報が責任者の努力と一般の支持によって、よく報道の任務を全うするよう健全に発達して行くことを望んで止まない。」との松山学長の言葉のとおり、学報は現在も毎月発刊され、本学の現状を報せるとともに、たゆまぬ活動を記録し続けている。

山口大学学報第1号



# 運営組織機構図 (昭和28年10月1日時点)

